

京都府立東宇治高等学校1年生 山崎エドワードさん

和訳

ゲイツさんへ

この本を読んで、私は「笑い」とは何かということについて新しい視点を学びました。

マイクは人間ですが、火星で育ちました。彼は火星人の言葉を話し、人間についての理解はありませんでした。ある日、マイクは地球に行くことにしました。彼はとても賢いので、人間についてすぐに理解しました。ただ、一つだけ分からないことがありました。それは、人間の「笑い」です。

しかし、最終的に彼は「笑い」について理解できるようになりました。それは、マイクがガールフレンドと一緒に動物園に行った時のことです。マイクは一匹の大きなサルが小さなサルを叩いているのを見ました。その小さなサルはその怒りを他のサルに向けることができず、力なく両手を地面に叩きつけたのです。このサルの行動を見たマイクはついに笑ってしまいました。彼は、他の人間の「笑い」を完璧に自分のものとしたのです。この話から私は、人間の「笑い」は攻撃性を覆い隠すものであるということを知りました。この作者の意見は妥当だと思います。これと同じことが、コメディアンに対して攻撃的な演出をする日本のテレビ番組に見られます。例えば、コメディアンを川に落とすといった場面です。

この本はマイクの旅や彼が学んだ事を通して、人間性の矛盾とは何かを教えてくれていると思いました。

エドワード・ヤマザキ